

頑張る

# 農業法人

野菜苗「淀苗」産地として知られる久御山町北川顔地区で、稼げる農業を目指して今年、家族経営を法人化した「株式会社山末農園」。都市近郊の立地条件を生かして順調に規模拡大を進め、若い担い手づくりにも力を注ぎ、地域農業を振興している。

同町の北川顔地区と藤和田地区は、かつて木津川の流路であったため、良質の砂地で室町時代から野菜苗が「淀苗」として伝統的に生産されてきた。今も、生産者が北藤育苗組合を設立して多品目の野菜苗を作る。

5代目の専業農家である村田和弘さん(47)も同組合の組合員として淀苗生産を行う他、水稲や都市近郊の強みを生かした軟弱野菜の生産に取り組んできた。

そうした中、経営の安定化や規模拡大を図るためには法人化が必要と決断。J A京都やましろなどの支援を受けて、1月6日、屋号の「山末」を社名にして設立した。和弘さんが代表取締役、妻のルリ子さん(47)が取締役となり、社員8人とパートタイマー10人で経営する。

現在、パイプハウス16棟(50坪)でトマト、キュウリ、ナスなど約20種類の野菜苗を年間30万本以上生産する他、小松菜(ハウス40坪)、ホウレンソウ(ハウス40坪)、露地60坪)、水稲(1・3畝)を生産する。また、九条ねぎ(露地1畝)は、肥培管理やハウス栽培で

の調整により1日600キを出荷する。村田さんが代表を務める同J A久

久御山町

## (株)山末農園



大規模なハウスで小松菜を栽培する村田和弘さん(左)と妻のルリ子さん

### 都市近郊を強みに 若手担い手の育成に力

区内の10戸から農地2畝を受け入れて、水稲やハウスでの野菜栽培に取り組むなど地域農業振興をリードする存在となっている。

村田さんは、「この地で稼げる農業経営者を育てたい」と、若手担い手の育成にも積極的だ。

府の「新規就農・就業者定着促進事業」と「農の雇用事業」を活用して若者3人を雇用し、村田さんの指導の下、研修に励んでいる。これまでに3人が村田さんの元を修了し、2人が近隣地で独立就農している。

村田さんは「大手実需者のニーズに対応できるよう、育ててきた地域の修了者としてつかりタッグを組んで、都市近郊の強みを生かした稼げる農業を行っていききたい」と話す。

▽法人の所在地 久世郡久御山町北川顔村西3の1。電話 075(631)3831。

の調整により1日600キを出荷する。村田さんが代表を務める同J A久御山九条ねぎ部会を通じた周年出荷だ。法人化により対外的な信頼を得て、地元の飲食店と冬場のキャベツの契約栽培を獲得した他、地